

専念寺通信

専念寺通信

三月号 (NO. 103)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

わりあい暖かった1月とうってかわり、日照時間が短く寒さのきびしい2月、雪の降る日もありました。そして弥生3月、三寒四温をくり返しながら、ようやくほんとうの春がやってまいりました。

☆春の彼岸

3月17日から23日までが春の彼岸です。お中日は3月20日、春分の日で、昼の時間と夜の時間がちょうど同じになります。この日をさかいに昼が少しずつ長くなり、季節はゆっくりと春から夏へかわっていきます。そして、この春分の日に太陽が真西に沈むことから、西方十億土にある極楽浄土を思い描き、いつの日かこの浄土へ往生できますようにと祈る期間として、お彼岸をとらえることができます。

☆六波羅密 (ろっぱらみつ)

太陽の沈んでいく様子を見て、その光景を觀じ、西方の極楽浄土を想うことを「日想觀」とよびます。太陽が真西にしずむ春秋の彼岸は、この日想觀の修行にもっともふさわしい期間であるとされてきました。「彼岸」という語は、本来、極楽浄土をあらわす言葉で、「到彼岸」はサンスクリット語の「パーラミター」の意味を訳した言葉です。そして、



この、パーラミターの音を訳した語が「六波羅密」です。六波羅密はサンスクリット語の原語に近い、ろっぱらみつ、と読みます。また、日本語として、ろくはらみつと読む場合もあります。意味は「理想を完成すること」で、彼岸の期間は、六つの徳目を思い起こし、みずからの生きる姿勢をととのえるための実践期間としてとらえることもでき

ます。六波羅密は次の六つの徳目です。

- 布施 ふせ
- 持戒 じかい
- 忍辱 にんにく
- 精進 しょうじん
- 禪定 ぜんじょう
- 智慧 ちえ

布施は、財産を施す意味の財施、恐怖をとりのぞき安心を与える意味の無畏施、真理を施す意味の法施、の三つからなります。

持戒は戒律を守ること、忍辱は苦難に堪え忍ぶこと、精進は真実の道をたゆまず実践すること、禪定は精神を統一すること、そして、最後の智慧は真実の智慧を得ることです。

これらの徳目は、考えかたによっては一生かかっても達成できないと思われるものもあります。「真実の智慧」とはなんでしょう。そして、それをもとめてたゆまず生きることが、果たして、凡人の私たちにできるのでしょうか。心にとめておくことはできます。忘れずにいることはできます。時々思い出し、実行しようと試みることならできそうです。たとえば、誰かにしていただいたことを、その場でお返しできなくとも、別の場所で、別の人にお返しすればよいのです。教えていただいたことで、真実だと思ったことを、別のときに別の場所でだれかに伝えればよいのです。なんとなく時間が過ぎると思ったら、時々たちどまって気持ちを集中し、何でもよいから考えてみます。気持ちを集中することに意味があるのです。そして、その結果を、特に誰にも言わず、自分の心に



しまつて自分のちいさな財産にします。いつの日か自分のため、誰かのために使えるかもしれない財産です。そして、むやみに闘わずに堪え忍ぶ方法を発明しましょう。ひとつでなくたくさん。上手に堪えることは、闘うより強いちからになる場合があります。このお彼岸の一週間に、ひとつ、またひとつと試してみましょ。自分のために、自分のたいせつな人のために。

平成21年3月1日 大黒

